

## 令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第8号（1～2月情報）について

### 1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稻	全県共通	<p><b>1 生育</b>            土づくり資材（肥料）及び有機物などを施用して土づくりに努める。堆肥は秋冬に投入した方が、次年度の地力蓄素として効果的である。            秋すきをしていないほ場は、早急に耕うんし、稻わら・大豆殻等の腐熟を促進させ、水田のガス湧きを避けるとともに、ヒメトビウンカやスクミリンゴガイ（下記2参照）の越冬密度の低減を図る。</p> <p><b>2 病害虫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクミリンゴガイが発生している地域については、ひょうごの農林水産技術No. 215 (<a href="https://hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/nousui215_02.pdf">https://hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/nousui215_02.pdf</a>) 及び農林水産技術総合センターYou Tube動画「スクミリンゴガイの生態と防除～冬季の耕うん～」(<a href="https://youtu.be/aeppoxufEcQ">https://youtu.be/aeppoxufEcQ</a>) を参考に、走行速度を落として丁寧な耕うんを実施する。</li> <li>・カメムシ類、ヒメトビウンカ等の越冬密度を下げるため、あぜ草の管理に努める。</li> <li>・ごま葉枯病が多発した圃場では、改良資材の投与や堆肥の施用など、土壤改良に努める。詳しくは令和7年7月29日発表の令和7年度病害虫発生予察技術情報第1号 (<a href="https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1394">https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1394</a>) を参考すること。</li> </ul>	
麦	全県共通	<p><b>1 生育</b>            本年度は播種時期が概ね高温少雨で経過したことから、出芽期以降の生育は、いずれの地域でもおおむね順調に推移している。</p> <p><b>2 栽培管理</b>            麦踏みは、ほ場が乾燥している時に、節間伸長期までに数回行い、分げつの促進と凍害防止を図る。播種量が多く、出芽後の生育が旺盛なほ場では、生育を抑えるために早めに実施することで、倒伏防止につながる。ほ場が湿った状態で麦踏みをすると、トラクターの車輪跡が残り、かえって湿害を助長するため、ほ場乾燥時に実施すること。            排水溝は、水が溜まらないように手直しを確実に行い、常に排水口に水が流れるようにする。</p>	
キャベツ	全県共通	<p><b>1 生育</b>            10～11月にかけて気温は高く推移しており、生育、収穫時期が早まる可能性がある。</p> <p><b>2 鳥獣害</b>            1～3月は、ヒヨドリによる食害が多くなる。</p>	<p><b>1 生育</b>            結球期以降は凍霜害を受けやすくなる。球表面の腐敗の発生等、品質が低下しないうちに適期に収穫を行う。</p> <p><b>2 鳥獣害</b>            鳥害が予想される場合は、ネット被覆等の対策を行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹	全県共通	<p>1 生育 凍霜害や雪害の発生防止に努める。</p> <p>2 病害虫 越冬病害虫の密度を下げる。</p>	<p>1 生育 敷きわらや伸びた草等は、果樹園内の気温を下げる所以、敷きわらは霜害危険期を過ぎてから行う。 クリ、ブドウ、モモ等において、耐寒性の劣る幼木のせん定は、厳寒期を過ぎてから行う。 ・クリ：春先の低温被害の対策として、幼木（2～4年生）への株ゆるめ処理等を行う（特に水田転換園は留意する）。 ・イチジク：稻わら、アルミ蒸着フィルム等で被覆を行う。主枝上面の被害が大きいので、稻わらを上面だけ被覆しても効果が高い。 ・青ナシ：粗せん定を実施し、枝への積雪を少なくする。また、棚の点検を行い、不良箇所を補修するとともに、必要に応じて中柱を追加する。 ・カンキツ類：耐寒性の劣る幼木や品種、未収穫樹に、不織布やこもで樹全体の被覆を行う。</p> <p>2 病害虫 病害虫の被害果、せん定枝及び落葉は、焼却あるいは園内からの持ち出しを行う。またマシン油乳剤や石灰硫黄合剤による薬剤防除とともに、粗皮削り等、耕種的な対策を組み合わせて、越冬病害虫の密度を下げる。</p>

◎ 水稲・麦の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※ 本情報は、1月5日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

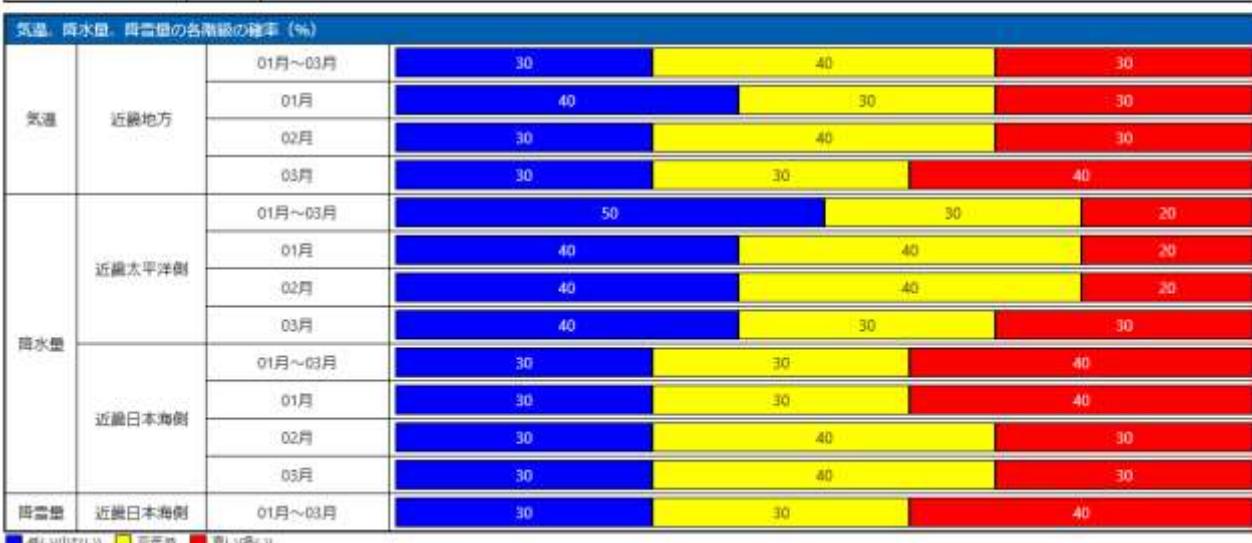
### (1) 近畿地方の向こう 1か月予報

近畿地方 1か月予報 (01/03~02/02)		
2026年01月01日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう 1か月 01/03~02/02	天候	近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で少ない確率 50%です。
	日照時間	日照時間は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに 40%です。
1週目 01/03~01/09	気温	1週目は、平年並の確率 50%です。
2週目 01/10~01/16	気温	2週目は、平年並の確率 50%です。



### (2) 近畿地方の向こう 3か月予報

近畿地方 3か月予報 (01月~03月)		
2025年12月23日14時00分 大阪管区気象台 発表		
01月~03月	降水量	降水量は、近畿太平洋側で少ない確率 50%です。
01月	天候	近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに 40%です。
02月	天候	近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに 40%です。
03月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。



※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1991～2020年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

## ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」  
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針」  
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」  
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稻・麦・大豆作等指導指針」  
[https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

## 問い合わせ先

### 本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078) 341-7711(代表)

農産班:主作・機械担当 内線 79409

農産班:野菜担当 内線 79410

花き果樹班 内線 79411

### 技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部

TEL (0790) 47-2435

農業技術センター 農産園芸部

TEL (0790) 47-2410

農業技術センター 病害虫部

TEL (0790) 47-1222

北部農業技術センター 農業・加工流通部

TEL (079) 674-1230

淡路農業技術センター 農業部

TEL (0799) 42-4880